

授業作り	重 点	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思考の流れを大切に、思考をつなげ、探究活動を繰り返し、基礎、基本を定着させ、深い学びにつなげる。 ・デジタル教材やタブレット端末を効果的に活用する。
環境作り		豊かに話し合い、学び合える学習環境作りを進め、各科、領域で対話的な学びを実践する。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習内容を確実に身に付けられるようにする。 ・国語では平仮名、片仮名の文字の形を正しく書くことや、小さい「や・ゆ・よ・つ」を正しく使って言葉を書くことができるようにする。 ・算数では、数の合成・分解、20までの数のたし算、ひき算が正しくできるようにする。 ・相手を意識して自分の考えを表現できるようにするとともに、相手の伝えたいことを落とさずに聞くことができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①単位時間ごとのまとめや振り返り ②デジタル教材の活用 ③話し方、聞き方の例示 ④話し合い活動の設定（ペア、3、4人程度の少人数）
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを意識しながら学習に取り組み、自分の考えをまとめ、表現できるようにする必要がある。また、振り返りも充実させ、次時に生かせるようにする。 ・最後まで、集中して話を聞けるようにすること、相手に伝わるように、順序立てて話ができるようにする。 ・主語、述語、「てにをは」に気を付けて、正しい文章を書けるようにする必要がある。 ・文章題の読み取りに課題のある児童に対する個別の支援が必要である。 ・繰り返し上がり、繰り返し下がりのある計算について、10のまとまりを意識した指導を繰り返して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①マス目合わせたノート指導 ②日記、短作文を書く習慣づくり ③話の聞き方のルールの徹底 ④具体物の操作を通した問題解決学習の設定 ⑤考えを図や式、文章で表現する活動時間の確保 ⑥デジタルドリルの活用を通した計算力の向上
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・主語や述語に気をつけて文章を書くことができる。 ・基礎的な漢字の読み書きにおいて、課題が見られる。 ・新宿区学力定着度調査では、「言葉・情報・言語文化」の領域で9割以上の正答 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な漢字の読み書きを確実にする。 ・話し合い活動や振り返り活動を充実させ、より児童が主体的に学習をしていけるように指導する。 ・図形の作図の技能を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①小テストによる、前年度までの漢字の復習 ②漢字を用いた日記や短作文を書く課題の設定 ③書くことや話すことに慣れさせる時間の設定

	<p>率ではあったが、全国平均との差が0.3pと僅差であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、「図形」の領域において全国の正答率を8.1p下回っている。 ・学力の底上げが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけ算を確実に定着させ、正しく活用できるようにする。 ・自分の考えを図や式、文章で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ④プリントやデジタルドリルの活用 ⑤計算タイムの設定 ⑥自分の考えを図や式などで表す時間の設定
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・題材を自ら探し、様子や気持ちを表す言葉を選び、適切に漢字を用いて表現することに課題がある。 ・自分の経験や思いを意欲的に話すことができる。一方、話の中心を考えて聞いたり、話したりすることに課題がある。 ・数と計算領域において、前学年までの計算を速く正確に解答することに課題がある。 ・問題文の場面をとらえ、必要な情報を選んで解答することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字を正しく使って文章を書けるようにする。 ・読書により、語彙を獲得できるようにする。 ・話の中心を意識して、考えながら話したり聞いたりすることができるようにする。 ・基礎的な計算力を高められるよう、四則計算の定着を図る。 ・問題の場面を実生活とつなぎ合わせてとらえ、適切に立式できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①漢字小テスト ②読書環境の整備 ③朝の時間のスピーチや日記の習慣化 ④デジタルドリルやプリントを活用した計算の習熟 ⑤算数的活動の充実
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に個人差があり、主体的に学習する児童と指導者から言われて学習する児童との学力の差が生じた。 ・タブレットを活用しながら、書くことに意欲的に取り組むことができた。しかし、文章を書く能力に差が生じた。 ・言葉の意味や文のつながりを考えて文章を書くことができた。しかし、文章の内容と結び付けて自分の考えを形成することに課題がある。 ・自分が考えたことについて数学的に表現、処理する力を養うことができた。 ・図形の性質や計量について考察する力に課題ができた。図形の面積や角の大きさを求める技術を身に付けていきたい。 ・タブレットを活用しながら、主体的に学習に取り組む児童がたくさん見られた。しかし、自分の考えを説明することに課題がある。 ・生活体験と結び付けた数学的活動を取り入れたが、児童一人ひとりの学習理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・指定された長さで文章を書くこと、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができるようにする。 ・「図形」領域では、平行四辺形等の作図に関して課題が見られる。定規やコンパスなど道具の使い方を指導して、基礎的な技能を身に付けられるようにする。 ・自分の考えを文で書ける児童が少ない。式や図などを用いて豊かに表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①事実や根拠と考えを分けて書けるよう指導の推進 ②友達の文をモデルとし参考にする機会の創出 ③デジタルドリルやプリントを活用した基礎・基本の定着 ④デジタルドリルの家庭学習での活用 ⑤オクリンク、ムーブノート等を活用した考えの共有

	に個人差が生じた。		
6 学 年	<p>・進出漢字の学習には意欲的に取り組んでいる。5年生のまとめのテストでは、9割以上の正答率だった児童は50パーセントだった。定着をさらに図っていききたい。</p> <p>・新宿区学力定着度調査では、話す聞く領域で、全国平均との差が1.1pと僅差であった。</p> <p>・意欲的に学習に取り組むことができる。自分の考えを表現するのに、図や式を使おうとする態度が見られてきた。</p> <p>・考えを筋道立てて説明することに苦手意識がある。評価テストでも、思考・判・表現の観点については、平均正答率が6割なので、向上させたい。</p> <p>調・新宿区学力定着度調査では、教と計算領域で、全国平均との差6.2pと1番差が少なかった。</p>	<p>・漢字テストでは書ける漢字を作文では使わないなど、活用の場面での課題が大きい。また、漢字のテストで平均正答率が7割程度なので、漢字の定着を図るようにする。</p> <p>・話し手の意図を理解することに課題が見られる。また、話し方の話型が身に付いていない児童も見られる。</p> <p>・図や式を使おうとする態度が見られるようになったので、より習熟を図る。</p> <p>・説明の方法を身に付ける。既習を使って問題解決をしようとする意欲を高める。</p> <p>・小数の除法、分数の加減に課題が見られる。小数点の移動や、通分の習熟を図るようにする。</p>	<p>①学習した漢字を使う時間の設定</p> <p>②デジタルドリルを活用した習熟</p> <p>③ICTを活用した交流、自分の話し方の確認</p> <p>④図や式や表を適切に使って表現する場の設定</p> <p>⑤既習を生かした説明の価値づけ</p> <p>⑥オクリンク・ムーブノート等を活用した考えを共有する機会の設定</p> <p>⑦計算の習熟のための時間の設定</p> <p>⑧デジタルドリルを活用した家庭学習</p>
特 別 支 援		<p>・一斉指示を聞き取って行動することができる態勢を身につける必要がある。</p> <p>・個々の特性に応じて、自己の行動をコントロールして学習臨む姿勢を身に付けられるようにする。</p>	<p>① 視覚的支援を併用しながらの指示理解の経験</p> <p>② 小人数の中での成功体験の積み上げ</p>

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>○様々な学習において協働学習ツールを活用した授業展開を行っている。また、デジタルドリルの活用により、習熟度に応じた学習展開に繋がっている。</p> <p>○全国学力学習状況調査及び児童・生徒の学力向上を図るための調査の結果を受け、学力定着状況の分析を行い、授業改善の方策について考える時間を設けた。</p> <p>▽学力向上に向けた授業改善のために、分析結果を受けた方策を継続的に考えていく。</p> <p>○校内研で「話すこと、聞くこと」を研究し、学び合い、伝え合う力を高める授業を目指した。その結果、相手に自分の考えを分かりやすく伝えようとする児童の態度が見受けられるようになってきた。</p> <p>▽伝え合う力を高めることに取り組んでいるが、友だちや先生の話聞いて、自分の考えに付け加えたり、考えを変えたりするところまで来ていないので、更に伝え合うことを進めていく。</p>	<p>・ICT 機器の効果的な活用による授業展開を継続的に続けると共に、OJT 等を通じた指導方法の交流を通して、指導法の改善に努める。</p> <p>・校内研究の課題として引き続き研究に取り組んでいく。校内研から得られた知見を授業実践につなげていく。</p>

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>○</p> <p>▽</p>	<p>●</p> <p>▼</p>